

姫路医療専門学校 自己点検・自己評価

令和5年度（令和5年 4 月1日～令和6年3月31日）

項目	点検項目	評 価		自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評 価		学校関係者評価委員よりの御意見	
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1				適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	4		教育理念・目的・養成人材像は、明文化・文章化されており、事業計画に目標・方法等を具体化している。会議や研修等においては、理念等の徹底をしている。常に業界とのコミュニケーションを図り、産学協同での教育を心がけている。業界が求める人材像を明確にするとともに、教科目標・教育課程・授業計画等の策定に活用している。 事業計画では「地域連携」「業界との連携」を掲げ、特徴ある教育プログラムを構築し、変化する社会に対応するために、中・長期の事業計画を策定し、毎年見直しをしている。 今後は、教育をとり巻く環境変化や学生の質的变化に対応するため、地域における活動や業界との連携を深めつつ、カリキュラムにはキャリア教育の実践を盛り込んだ内容を加え、さらなる職業人教育の質を高めていく。	職業人教育を通して社会に貢献することをミッションとし、3つの建学の理念（実学教育・人間教育・国際教育）の実践、4つの信頼（学生、保護者からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼）を得られる様に学校運営する中で、各業界のニーズに即した人材育成を行っている。 業界の人材ニーズは常に業界講師の方々や臨床実習先の指導者と情報共有を行い、その把握に努めている。教育課程編成委員会においてもニーズ、将来性などを聞きとり、新たな教育活動に取り組んでいる。開校して6年を経て、3年制の学科は第4期生を業界に送り出した。今後は、同窓会活動を通じて、卒業生の就業後の状況の把握を行い、教育活動に反映させていく。 地域の救急医療への貢献のために、新たに救急救命士科を設置を行った。救急救命士法の改正を受けて、将来は病院内でも活躍できる救急救命士を視野に入れた教育を行っていく。 これにより、リハビリ系2学科、救急医療系2学科の学校としての特色ある教育活動を行っていく。	4.0		・開校からコロナ禍の渦中においても理念を実現することに取り組み、アップグレードしながら教育活動を進めていると思います。 ・理念について、社会情勢等を鑑み、適切に設定することが求められていると思います。定期的に検討されている実績を残されても良いかと思えます。 ・新たな救急救命士科も、実習先が確保され、順調にスタートされたと思います。	
	1-1-2 育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか								
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか								
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか								
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4		法人としては、事業計画・運営方針を定めることを重要視している。運営方針は学校事業計画書内に理念、目標、具体的な計画等と関連づけて明文化している。	事業計画の構成は、組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的)、運営方針(中期的に組織として目指す方針)、実行方針(中期的な組織の運営方針を実現する為の単年度の方針)、定量的目標(入学者・教育成果<中退防止・国家試験合格数>・就職率等)、定性的目標(人材育成や組織のあり方等単年度目標)、実行計画(その方針を実現させる為の具体的な計画)、組織図、職務分掌、部署ごとの計画・スケジュール、意思決定システム、収支予算書(5ヵ年)で毎年作成している。	4.0		・教職員と学生が、生き生きとそれぞれの目的に沿って活動できるように工夫されている。計画・立案・実施・反省がされている。	
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	4		毎年、業界のニーズに対応した事業計画・運営方針を作成するように努め、明文化された事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての教職員が理解した上で各業務に取り組んでいる。					
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4		運営のための組織図・職務分掌・会議の目的と主催者（決定権者）は事業計画に含まれており、会議・研修で共有している。 会議、委員会等の議事録は開催毎に作成し、関係者に共有をしている。 組織運営のための規則・規定を設け、運用に不足がある場合は、運営会議で検討し改正を行っている。					
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか								
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか								
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4		意思決定システムは事業計画において明文化しており、諸会議の位置づけについても明記されている。意思決定を行う会議の進め方、結果の取り扱いを重視し会議毎に参加者は選抜され、その中で主催者に権限は委譲されている。					問題解決サイクル（問題発見⇒問題分析＋仮説立案⇒対策立案⇒実行⇒検証）を回していることが意思決定プロセスを効果的に活用できている。学校運営を円滑に進めるには、個人レベルでの継続的なスキルアップが必要である。
	2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	4		システムは、学生・入学者・卒業生・実習先・就職先等の対象別、教務・就職・広報等の業務別、において幅広く導入されている。学校セクション毎の情報システム化、学生の情報の管理、その結果としての業務の効率化が推進されている。					業務の効率化と同時に、学生一人ひとりの情報を一元管理することにより、学生への様々な支援や求められる人材の養成や国家資格取得に結びつけることが出来る。DX化に取り組んでおり、R6年度から新たなシステム活用ができる予定である。

項目	点検項目	評 価	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	厚生労働省による養成施設指定規則に従い、教育課程の編成と実施方針を定めている。 教育指導要領、学生便覧において、学科ごとの到達レベルである「養成目的、教育目標、学年・学期目標」を学生に明示している。 毎年度、各学科の事業計画の中で、教育目標や業界が求める人材像を調査し、その見直しと確認を行っている。 業界ニーズに基づいた人材育成を行うため、常に業界の変化に対応するような情報共有を行っている。対人援助職としての技術、知識及び人間性を高めるため、早期年次からの見学実習や、学外実習へ向けての患者モデルによる学内実習など多彩な実践形式の授業を計画、実施している。	学生の職業理解を深め、学習のモチベーションの向上を図るために、卒業生の授業、行事への参加を積極的に推進し、各自の将来像を明確化する教育プログラムも実施している。 「実践力」向上のために、全学科でOSCEを実施し、外部講師や卒業生に参加して頂き、外部視点での評価を導入して教育に活かしている。 「キャリア教育」については、学園グループで策定した「キャリア教育ロードマップ」に基づき、「専門職業教育」と「キャリア教育」を実践し、専門知識・技術のみならず職業人として必要な力を身につけるプログラムを実施している。 R 5年度は、教育プログラム改善と教員の指導力向上を目的として、学科横断の組織となる学年別委員会を設置し活動した。この委員会の連携によって、特にキャリア教育プログラムを改善し、中期的には「国家試験合格」「就職対策」の向上を目標としている。	4. 0	・教育課程は必要に応じて適切に変更・再編成されていると思います。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	授業には、各業界の専門職の方々を講師に召還し、学生の状況を把握しての意見を頂き、臨床実習においても、その評価を教育課程編成に反映し、また「教育課程編成委員会」を設置して教育課程を編成している。 キャリア教育は学校行事や課外活動においてその目的・目標を定めて実践している。 授業評価は専任教員に対して行っていたが、R 5年度から講師の授業も対象にした。より質の高い授業展開が出来る評価内容を検討し、教員・講師との連携を深めフィードバックできる環境をさらに整備していく。	R 5年度は、教育プログラム改善と教員の指導力向上を目的として、学科横断の組織となる学年別委員会を設置し活動した。この委員会の連携によって、特にキャリア教育プログラムを改善し、中期的には「国家試験合格」「就職対策」の向上を目標としている。	4. 0	・OSCEに卒業生が参加していること、前学年合同授業、ゼミ活動など、良い取り組みだと思えます。 積極的にキャリア教育に取り組んでいると思ます。 ・OJT的な内容の授業が多い印象です。就職後、若いセラピストのメンタルヘルスに関わる課題が増えているので、セルフマネジメント、セルフコーチングが少しでもできるようにして頂きたいです。 ・少人数での授業や意見交換は良いように思われがちですが、多様な意見や少数意見が出にくいという欠点があります。そういった意見を先生から提示していただくことで、その欠点が解消できればと思います。
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか					
	3-9-4 授業評価を実施しているか					
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	成績評価や単位認定の明確な規定が学則や履修規定により明文化されており、教員・学生ともに周知されている。進級判定会議を開き、議事録も記載保存している。授業では、研究発表の機会を設け、発表会・報告会で成果を把握できるようにしている。臨床実習報告会では全学生が発表を行い、臨床実習における成果を把握し、下級学年の学生も参加して臨床実習の準備学習としている。	履修規定や当該年度の教育目標は各学期の開始時に、新入生・在校生オリエンテーションで学生に周知している。 国家試験対策については、滋慶学園グループのスケールメリットを活かし、学園が設置する国家試験対策センターの集約のもと、全国のグループ校が持つノウハウを共有し国家試験対策を講じている。定期的に模擬試験を実施し、成績のデータ化、蓄積による分析結果に基づいた受験対策ができる体制が整備されている。また、国家試験対策研修を行うことで担当する教員のスキルアップに努めている。自宅学習支援や国家試験対策問題を活用できるe-leatningの学習環境も整っている。 学力の向上だけでなく、「専門職業教育」と「キャリア教育」をフローで行う教育の構築を目指し、国家試験に合格できる人間力も養っていく。	3. 9	・学生の主体性を重視して工夫されている。教員の側面からの支援は大変でしょうが、その成果があったと思う。
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3				
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	取得目標資格は教育課程上明確に位置づけられており、国家資格取得の対策は、1年次から平常授業のみならず、国家試験対策講座等を行い、卒業時までのフローで計画をしている。また学力不足の学生に対しては個別面談から学生の到達度に応じて、補習や補講など様々な取り組みを実施している。		4. 0	・学力不足の学生に対しての手当が良く配慮されている。 ・国試トレーニングをすることで、自分で調べ考えることができます。
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	各科ともに「養成施設指定規則」の規定に基づき、また、学科の到達目標を達成するために、その分野のスペシャリストである事が採用条件である。教員は学園の方針、養成したい学生像を理解し、情報の共有や問題解決につなげている。 教員は、専門の業界団体、学会に加入しており、それらの主催する学術大会、セミナー等への参加を奨励している。また、教育者としての専門性の向上においては、上記のFD活動は基より、学園グループ、神戸滋慶学園内での様々なレベルの研修会を実施している。 教員組織は目標実現のために学科内外の情報を共有し、チームワークを必要とされる。各学科会議、運営会議を中心に常に教員間の情報の共有化を図っている。	教員の研修参加については、研修のオンライン化が進み、各種研修の受講機会が増えた。 キャリア教育や国家試験対策、学習能力開発の分野では委員会活動を活発化して、成功事例や対策の共有を行い、教員組織の連携とチームワーク向上を図っている。 R 5年度から、学年別委員会を設置し活動している。R 6年度は3年生の教室を隣接させ、各科指導体制や教育効果を学校全体で見える化し、プログラム改善や指導力向上を目指していく。	4. 0	・臨床工学技士は、厚生労働大臣の研修を受けることで、新たな業務ができるようになります。教員の方にも受講をお願いします。
	3-12-2 教員の資質への取り組みを行っているか					
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか					

項目	点検項目	評 価	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	キャリアセンターを設置して求人先の確保を行い、担任と連携して学生の就職活動の支援を行っている。就職率の向上には、外部施設での実習やインターンシップが有効と考え実施している。将来の就職を見据え、臨床実習先の開拓も続けている。	求職ニーズが高く求人件数、求人数ともに充分にある。現在は、学生の就職後の目標を明確にして受験先を早期に決定できるように、就職対策だけでなく、教育活動全般で改善を図っている。	4.0	・就職説明会の内容が充実し、就職活動の支援も活発になっている。 ・対面の就職説明会に参加しましたが、とても有意義でした。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	国家試験合格率の向上のためには、前年度の分析を行い、1年次からの国家試験対策準備授業、2年次からの模擬試験など3年間のフローで対策を立てることが重要と考えプログラムを実施している。また、学習面だけでなく、生活面、精神面の指導も行っている。	R 4 年度まで向上傾向にあった国家試験合格率が R 5 年度は 2 学科が下降した。3 年制の教育プログラムにおいて、3 年次からの国家試験対策では学力面の挽回は難しく、また、生活面、精神面の自立度を 2 年次までに養う必要がある。R 6 年度は、1 年生からの国家試験対策を見直し、対策に取り組んでいる。	3.7	・資格合格率の変化に対する分析・対策が早いと思います。 ・少人数での勉強会を実施することが大切だと思います。
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	「卒業生の就職先での評価」は教育成果の評価基準のひとつであり、就職先からの聞き取り、また卒業生の来校時に聞き取りを行っている。今後、卒業生数が増えれば、組織的な把握方法が必要と考えている。	学園として、離職調査を就職後 1 年目、3 年目の時期に行っている。卒業生の就職先は、臨床実習先、士会会員の勤務先、講師の勤務先、就職説明会参加病院など、学校及び教員と接点のあるところが多く、日常的に卒業生の評価を聞いている。	3.7	・卒業生の活用は、今後も力を入れて欲しいと思います。学校にとっても良いですし、卒業生にとっても心地強いと思います。
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	入学時から就職準備のプログラムを実施している。キャリアセンターを設置し、求職活動、求人情報の管理、就活セミナー、就職対策講座の開催、個別就職活動支援、面接指導などを実施している。	病院説明会は 7 1 施設がオンラインで参加して頂き実施、就活セミナーは卒業学年だけでなく、2 年生も参加し、早期内定を目指す意識付けを行っている。卒業生を活用した仕組みも実施している。	4.0	
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	4	退学防止のために入学前から学生一人ひとりを見ることに重点を置き、学生の諸問題の早期発見と学習面、生活面のサポート体制を整備している。教員の教授力、サポート力の向上のための研修も行っている。	滋慶学園グループが独自に開発整備した学生サポートアンケートを実施し、問題を持つ学生を早期に発見し対応することで中途退学防止へつなげている。滋慶学園グループは独自のカウンセリング研修を設けており、全教職員がカウンセリングマインドを持って、学生に対応できるよう研修を受け、資格を取得している。学業不振からの退学率低減のために、1 年次・2 年次の学生のうち、読解力・計算力・資料読解力などの学習を必要とする学生に対して、新たな学習能力開発サポートの仕組みをスタートさせた。仕組みの改善を重ねていく。朝の挨拶運動は挨拶の習慣化とともに、教員が日々学生の顔色を定点観察する、学生が他学科の教員ともコミュニケーションが取れることも目的としており、問題の早期発見に役立てている。	4.0	・学生へのサポートは様々な方向からアプローチができていると思います。関われる限度はあるかと思いますが、相談できる体制があるのが大切だと思います。 ・これだけ多くの体制を組んでいるのは学生にとっては恵まれた環境だと思います。 ・メンタル面は学校だけでは難しいと思いますが、今後もメンタルが弱い学生が多くなると思いますので、カウンセラーや先生方の存在がありがたいです。
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4	学習面、メンタル面・健康面、経済的な問題などの相談を各所で受け入れる体制を整備し、有効に機能させている。必要な学生には、学内のスクールカウンセラーを配置し、カウンセラーと教職員がチームとしてアプローチし、問題の解決にあたっている。学生の多様性、個別性によるより一層の教員研修の必要性を感じている。	学費支援システム・特待生選抜制度・在校生援助奨学金など完備している。健康診断をはじめ、環境衛生委員会を中心に、感染予防にも努めている。課外活動としてレクリエーション大会や学園祭（リコルス祭）を実施、学生主体の同好会活動の体制は整えている。SNS や若者の遭遇し易いトラブル対策など、警察とも連携して、安全な学生生活のためのセミナーなどは随時行っている。	4.0	
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか					
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	学生の経済的側面の支援は、研修を受けた職員を配置、事務局職員による個別相談の実施によって、事前に学費相談を受け、奨学金や学費ローン等アドバイスをしている。	学費支援システム・特待生選抜制度・在校生援助奨学金など完備している。健康診断をはじめ、環境衛生委員会を中心に、感染予防にも努めている。課外活動としてレクリエーション大会や学園祭（リコルス祭）を実施、学生主体の同好会活動の体制は整えている。SNS や若者の遭遇し易いトラブル対策など、警察とも連携して、安全な学生生活のためのセミナーなどは随時行っている。	4.0	
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4	健康面、生活環境支援では、日常的に担任による欠席理由の把握、学生面談での聞き取り、健康診断後の再検査の必要性の周知など体制は整備している。学生の変化に気を配り注意している。			
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	4	県外学生(需要)が少ないことから学生寮はないが、一人暮らしの学生への生活面のサポートも行っている。			
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3	学友会活動として課外活動を支援する体制の整備はできている。			
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4	本校のミッションである職業人教育や就職、学生の資格取得実現のためには学校だけでなく家庭を中心とした学校外での学生動向も把握するように努め、問題解決にあたり、保護者との連携の強化を図っている。	入学前教育ととらえている、入学前のオープンキャンパスには多くの保護者の方が本人と一緒に参加している。オープンキャンパスでは保護者会を開き、学校の考え方や個別質問に対応している。入学前の 3 月には保護者会を実施。支援方針と体制をご理解頂き、保護者に学校との協力をお願いした。	4.0	・この会議にも保護者の方がおられるのは安心です。 ・入学後も保護者と関わるようなイベントがあると良いと思います。 ・年に1、2回、学生個々の励んでいるプラス面を通知できれば良いと思います。
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	本校の方針として「卒業後の自己実現、キャリア開発」のための卒後教育を同窓会活動として実施する計画である。第 3 期生が卒業した R 5 年度は名簿や管理システムの整備を行った。R 6 年度は各科での同窓会を実施する。	R 6 年度は、各学科卒業年度毎に同窓会委員を置き、卒業生ネットワークを作り、情報収集を行い、第 1 回同窓会を行う。言語聴覚士科は神戸医療福祉専門学校三田校の言語聴覚士科と合同で、オンラインによる研修会を R 3 年度から毎年実施しているが、姫路医療の同窓会として実施する予定。	3.9	・卒後研修を実施しているのは、現場としてはとてもありがたいです。 ・学校には、卒業後も相談できる場所として卒業生のフォローをお願いしたいと思います。そのためにも現場と学校が連携は必要があると思います。 ・卒業後は学校との接点も少なくなりがちなので、学校・卒業生ともに情報を共有できる体制を整えて頂きたいです。
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか					
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか					

項目	点検項目	評 価	自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備教育用具を整備しているか	4	実習においては、実際の現場で使われている設備を備えていることが不可欠である。実学教育に力を入れている本校の設備、施設はかなり高いレベルで整備されていると考えている。	各学科とも、厚生労働省指定養成施設基準を満たしている。ICT教育環境の推進のため全館WiFiを整備している。R 5年度は、救急救命士科の臨床実習室、救急車を設置した救急救命実習室を整備した。	4. 0	・設備は充実していると思います。新しい器材もどうされていて良いです。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	建学の理念、実学教育・人間教育・国際教育のもと、カリキュラムに学外実習を計画的に配置している。各科とも見学実習、学外実習、臨床実習を実施し、体制も整備されている。「国際教育」を実施するにあたり、マニュアル化・体制の整備をさらに進めていく必要がある。	厚生労働省による各養成施設規定で定められている臨床実習のほか、1年次から学校独自で各学科ともに学外施設で行う見学実習プログラムを実施している。また、隣接する保育園での交流授業は実施したが、高齢者施設では中止となった。令和6年度は三田校と連携した海外研修を計画していたが、旅費の高騰で履行できず、翌年度に持ち越す。	3. 3	・他学科、他校との交流等、学外へ出て学機会を多く設けて頂きたいと思います。 ・セルフコーチング的な要素を在学中に学んでおいて欲しいです。
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか 6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4	防災体制については、防火管理責任者を配置し、防災計画作成と防災訓練を実施している。また、災害時に備え、学生、教職員の安否をメールで確認するシステムも構築している。開校から5年間は学生数の増加が大きいため、防災訓練、安全管理体制は毎年見直す必要がある。	校内の安全は、環境衛生委員会で教員の意識を高め、管理センター職員が常時巡回を行い、注意を払っている。R 6年度は教員も防火管理者を取得し、学生への防災教育も行っていく。	4. 0	
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4	兵庫県専修学校各種学校連合会の規定に基づき、募集開始時期、募集内容を遵守している。また、学校案内・募集要項をはじめとする資料は、上記の定めたルールに遵守したものとなっている。高等学校への訪問で本校への理解を頂き、高等学校のご意見を直接聞いている。ホームページにおいても上記のルールを遵守したものになっている。	本校職種の認知を向上するため、本校職種に限らず幅広く職業理解や適性の発見が行えるように、高等学校内の職業説明会などに参加している。学校と職業認知のためのWEBやSNS上の広報を強化し、職業理解のためのオープンキャンパスを実施している。	3. 9	・学生の確保については、学校だけではなく、業界全体で取り組む必要があります。現場でも臨床工学技士の人材確保は緊急の課題です。学校には職業の認知度向上も含め、各業界団体と連携・協力していただければと思います。 ・近年は学生の数も減ってきていると聞いています。高校への広報も早めに動かれていると聞いて安心しました。 ・救急救命士科の新設は、同窓生でも知らない人がいます。卒業生に認知してもらうことは、業界や地域での認知度向上にも繋がると思います。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか					
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	アドミッションポリシーを明確にし、ホームページでの掲載や学校説明会で説明をしている。学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。各回の選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。また、選考終了後は選考会議により可否を確定する。面談結果、書類内容、選考試験が実施されている場合、その結果を踏まえ、将来業界で働くことに適正があるかを総合的に判断している。	将来の希望分野への適性をきちんと見極めるため、面談の比重を高くしている。結果として学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。また、AO入試を導入し、学力に捉われず、キャリア教育の一環として、目的意識ややる気を重視した入学選考を継続する。		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	学納金は、各学科の教育目標達成を目指した学校運営に必要な金額であり、人件費（講師、教職員）、実習費、施設運営費等に当てられている。毎年、各学科において教科書・教材及び担当講師の見直しを行っており、諸費用の無駄な支出をチェックしている。また、入学辞退の取り扱いについては、募集要項に明記して対応している。	入学以前の募集要項やオープンキャンパス時の保護者会において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたったのアドバイスを実施している。		
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について適正な取扱いを行っているか					
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	厳しいチェック及び評価が行われ、中長期的に財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。 5ヵ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができ、財務基盤の安定につながっている。	安定した運営を継続的に行うため、各学科における1学年の募集定員の充足率100%を目指し、退学率の低減を図る。新設の救急救命士科は許認可関係のスケジュールにより十分な広報活動ができず、R 6年度に入学定員充足をめざす。	4. 0	
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか					
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	5年を見越した収支計画も作成しているが、単年度予算についても、学校、学園本部、理事会・評議員会でチェックしているので適正な執行管理になっているものと考えてる。	予算→四半期予算実績対比→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか					
	8-30-1 私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の監事からの意見が述べられている。 監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。		
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	財産目録、貸借対照表、収支計算書、監査報告書など財務情報公開の体制整備は出来ている。	当法人の財務情報公開に関しては、常務理事が統括し、事務局長が責任者として担当する。また、事務担当者を置いて現場対応を行っている。＜公開書類＞1．財産目録2．貸借対照表3．収支決算書4．事業報告書5．監査報告書		

項目	点検項目	評 価		自己点検	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評 価		学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1				適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1		
9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4		法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、整備されている。カリキュラムや教員要件はしっかりチェックし、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する研修を実施している。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	4.0		・法令等に関しては、コンプライアンスの遵守がしっかりとされていると感じているので、安心感があります。 ・近年人権問題が重視されています。人間関係の絆を大切にしながらも、過ぎはあります。明るい、学んでよかった、楽しい学園である本園の更なる人間関係を豊かにしていきましょう。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4		学内で個人情報保護規定を定め、個人情報保護委員会が中心となり運用している。教職員に対しては、個人情報保護責任者は認定CP0アカデミック講座を通して、学校等における個人情報管理責任者として必要となる知識を習得。教職員は、認定CPAアカデミック講座を通して学校等における個人情報取り扱い従事者として個人情報を取り扱うために必要となる知識を習得した。それぞれ更新講習に取り組んでいる。学校は個人情報の集積であるとも言える。教職員学生においては、更なる理解を深め、定期的な研修を開催し、意識を高めていおく必要がある。	外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、ホームページ上に明記している。学生と講師に対しては、オリエンテーションなどにおいてITリテラシーについてや個人情報保護について冊子を用いて伝えている。			
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4		平成30年度(開校)年度の自己点検・自己評価を令和元年度から開始し、結果をホームページに掲載している。令和2年度からは学校関係者評価委員会を組織・開催し、評価に基づき短期的・中長期的課題の整理を行い、改善に取り組んでいる。結果はホームページで公表している。	下記HPアドレスにて情報公開している。 http://www.kmw.ac.jp/about/joho			
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか							
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか							
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか							
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4		教育情報、教育活動はホームページに掲載しており、情報公開は行っている。					
10 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3		職業教育を通して社会に貢献することが本校の使命であり、学校の理念「4つの信頼」の中で、地域からの信頼を掲げ、社会貢献、地域貢献に積極的に取り組み、地域の方々からの信頼を得られることを行動の指針としている。学校行事の学園祭は地域貢献を目的として、また、医療系専門職の教育は地域の医療・福祉活動に参加を推奨している。キャリア開発の一助として高校での医療系職種説明会等にも講師を派遣している。「建学の理念」に国際教育を掲げており、グローバルな視点と感性を持ち、外国の方たちともコミュニケーションが取れる医療人材になることを目的として「コミュニケーション英語」の修得や2年次には「国際教育」の教育プログラムも実施している。	作業療法士科2年生が授業の一環として「たつの市障がい者スポーツ大会〜らく(楽)スポでえーがいや!」の企画を提案し、当日運営にボランティアで参加させて頂いた。地域の城巽地区のイベントにも参加させて頂いた。兵庫県専修学校各種学校協会主催による「トキメキ仕事体験」事業にて高校生のキャリア意識促進のための体験学習や高校のインターシップを受入れた。R6年度は、さらに中学からのインターシップ受け入れを行う。国際教育の一環として行う海外研修に関しては、R6年度に神戸医療福祉専門学校三田校との合同開催を検討していたが、旅費の高騰により中止が決定した。	4.0	・地域貢献や社会貢献事業を推進されているのは、とても良いことだと思います。様々な方と関わることは、学生にとって良い経験になり、社会に出てからも役立ちます。 ・言語聴覚士科のみなさんは失語症当事者会に参加されることもあり、とても良い経験になっていると思います。続けて頂きたいです。 ・学生個人として興味のあることや活動していることがあれば、それも社会貢献活動として認め、評価すると良いと思います。 ・高騰学校だけでなく、中学校の体験まで活動されているのは非常に良いと思います。中学生で職業を知ることは大切です。	
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか							
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3		学生には地域や施設でのボランボランティアは積極的に推奨しているが、実施実績が少ない。全ての学生が、ボランティア精神を持って、主体的に活動できるような教育プログラムを構築する。	地域の「城巽地区イベント」「白鷺小中学校の勉強サポート」「姫路城マラソン 救護ボランティア」など、毎年学校として継続的に参加しているものや、姫路市社協、県内の地域、医療福祉関連施設からの単発的なボランティアに学生が自主的に参加してい。			